

価格.com

2014年2月6日
株式会社カカコム**2013年、ユーザーがもっとも高く評価した製品は？****『価格.com プロダクトアワード 2013』を発表！**

景気回復の兆しが消費者の購買意欲を刺激、「本格・高級志向」の製品に支持が集まる

～2013年は、“高くても良いものが再び評価”されるようになった一年に～

<http://kakaku.com/productaward/>

株式会社カカコム（東京都渋谷区 代表取締役社長 田中実 東証コード：2371）は、同社が運営する購買支援サイト『価格.com (<http://kakaku.com/>)』において、2014年2月6日（木）、『価格.com』に掲載されている製品の中から、2013年1年間を通じてユーザーにもっとも支持された製品を選出する『価格.comプロダクトアワード 2013 (<http://kakaku.com/productaward/>)』を発表しました。

特設ページにおいて、受賞製品に対してユーザーから寄せられたレビュー（評価）や、各製品のランキング推移とともに、大賞受賞メーカーよりいただいたコメントなども掲載しています。

日本経済に明るい兆しが見られた2013年度の結果を見ると、「本格志向」「高級志向」を目指した製品が、多くのユーザーの支持を集めていることがわかります。景況感の改善により消費者の購買意欲が刺激され、「価格帯は高くても、納得できる上質な製品を選びたい」というニーズが高まったことが背景にあると考えられます。

特に大賞受賞の7製品においては、移り変わる消費者ニーズをとらえ、“所有する喜び”や、“ワンランク上の上質感”といった価値を提供した製品や、これまでの人気製品に最新技術を惜しみなく注ぎ込み、さらなる磨きをかけた製品が、ユーザーから高い評価を得ました。

『価格.comプロダクトアワード』 概要**■ユーザーの声をもとに製品を選出！**

POS データなどをもとにした販売数や販売額、専門家や著名人による選出などとは異なり、価格.com ユーザーによる製品レビューやクチコミ情報などのデータを独自にポイント集計し、各賞を選出しています。2006年8月に上半期集計による結果を発表したのから始まり、年間アワードとしては、8年目を迎えます。

※レビューやクチコミ数が一定数に満たない製品、発売時期が2013年ではない製品は、評価内容に限らず選考の対象外となります。

■対象カテゴリ・部門

価格.com の取扱い製品分野において、特に高いアクセスを誇る「パソコン本体」「パソコン関連」、「AV 家電」、「生活家電」、「カメラ関連」、「携帯電話・スマートフォン」、「自動車関連」の7カテゴリ99部門が対象。人気製品や定番製品から、通好みな製品まで数多く網羅しています。（集計対象期間：2013年1月～12月）

■各賞

- ・プロダクト大賞・・・パソコン本体、パソコン関連、AV 家電、生活家電、カメラ関連、携帯電話・スマートフォン、自動車関連の7カテゴリから各カテゴリにおける最も高い支持を得た1製品（計7製品）を選出
- ・部門賞（金賞・銀賞・銅賞）・・・各カテゴリ内の全99部門における上位3製品を選出



プロダクト大賞 受賞製品 (7 製品)

【パソコン本体 大賞】

[APPLE MacBook Air 1300/11.6 MD711J/A](#)

(Mac ノート)



【AV 家電 大賞】

[SONY XBA-H3](#)

(ヘッドホン・イヤホン)



【カメラ関連 大賞】

[ニコン D7100 ボディ](#)

(デジタル一眼カメラ)



【パソコン関連 大賞】

[BOSE SoundLink Mini Bluetooth speaker](#)

(PC スピーカー)



【生活家電 大賞】

[三菱電機 Be-K TC-FXC5J](#)

(掃除機)



【携帯電話・スマートフォン 大賞】

[シャープ AQUOS PHONE SERIE SHL22](#)

(スマートフォン)



【自動車関連 大賞】

[ダイハツ タントカスタム 2013年モデル](#)

(自動車本体)



※『価格.com プロダクトアワード 2013』は、パソコン・スマートフォン・携帯電話からご覧いただけます。

総評： 株式会社カカコム 上席執行役員 メディアクリエイティブ部 部長 鎌田剛

2013年という年は「アベノミクス」効果などの影響で、日本経済全体にやや明るさが戻った年となった。ここ数年苦境が続いていた家電業界にも、若干明るいきざしが見え始めており、しばらく国外メーカー勢に押されていた感のある「スマートフォン」などの分野では、国内メーカー勢の健闘が目立った。携帯電話・スマートフォン部門で、プロダクト大賞を受賞したシャープの「AQUOS PHONE SERIE SHL22 au」などはその好例だろう。「ガラパゴス」と呼ばれ、スマートフォン市場では遅れを取ったと言われてきた国内の携帯電話メーカーだが、ここ数年のたゆまぬ技術向上などによって、ついに、世界でもトップクラスの総合性能を持つスマートフォンを作り上げるに至った。ここ数年の地道な努力がきちんと成果として実ったことは、まさに敬服に値することだったと思う。

また、メーカー側の「もの作り」に対する姿勢も、ここ数年でだいぶ変わりつつあり、前年の2012年から引き続き、「本格志向」「高級志向」を目指した製品が多く登場している。興味深いのは、こうした「本格志向」「高級志向」の製品を購入した消費者の反応だ。よくできたプロダクトに対しては、「価格は多少高いが、それでもいい買い物できた」という反応を示すユーザーが圧倒的に多く、それが、価格.comのユーザーレビューの満足度となって現れている。パソコン関連部門のBOSE「SoundLink Mini Bluetooth speaker」や、AV家電部門のソニー「XBA-H3」、さらに自動車関連部門のダイハツ「タントカスタム 2013年モデル」などは、こうした「本格志向」「高級志向」が多くの消費者のニーズにピタリとあった製品と言えるだろう。家電不況などといわれる昨今だが、消費者の移り変わるニーズを的確にとらえ、「所有する喜び」「ワンランク上の質感」といった価値を提供することに成功したこれらの製品が各部門のプロダクト大賞に輝いたことは、2013年という年を象徴する出来事とっていいだろう。

このほか、従来から人気のあった製品をよりブラッシュアップし、今持てる技術を惜しみなく注ぎ込んだ製品としては、パソコン本体部門のアップル「MacBook Air 1300/11.6 MD711J/A」や、カメラ関連部門のニコン「D7100」などがあげられる。いずれも、性能と価格のバランスにすぐれたベストセラーモデルをベースにしなが、最新の技術を注ぎ込むことで、その製品コンセプトにさらなる磨きがかかっている。両者とも、従来モデルのネガティブ要素がほぼ完全にクリアされた、ある意味では「完成形」といっていいほどの仕上がりになっており、購入したユーザーの多くが高い満足感を得ている。

こうして全体を俯瞰すると、2013年という年は、「高くても良いものが再び評価されるようになった年」といえるのではないだろうか。日本経済がやや明るさを取り戻していく中で、消費者の購買意欲が刺激されたことと、ここ数年のやや画一化されつつあった製品群の反動として、「多少高くても、納得できるような、いいものを選びたい」という消費者心理が働いたことが、これらの「本格志向」の製品の購入および高評価に結びついたので感じる。

【鎌田 剛 プロフィール】

上席執行役員メディアクリエイティブ部 部長

パソコン雑誌の編集者として活躍した後、メディアとしてのWebの可能性を信じ、2002年、カカコム入社。価格.comやウェブマガジンを中心に記事の執筆編集、消費動向分析など幅広く活躍。テレビや雑誌等へのコメント協力多数。

**【価格.com サイトデータ】(2013年12月末現在)**

月間利用者数 4,568 万人、月間ページビュー10億 3,292 万 PV、累計クチコミ件数約 1,600 万件。

<月間利用者数の内訳> PC : 2,990 万人 スマートフォン : 1,510 万人 モバイル : 68 万人

▼『価格.com』ソーシャルメディア公式アカウント

- ・ Facebook 公式ページ一覧：<http://kakaku.com/facebook/pagelist.html>
※モバイル、カメラ、自動車・バイクなど、カテゴリ別に提供中
- ・ Twitter (価格なう)：<https://twitter.com/kakakucom/>
- ・ Google+：<https://plus.google.com/109759724047688081762/>
- ・ mixiページ：http://page.mixi.jp/view_page.pl?page_id=119404

【株式会社カカコム 会社概要】

所在地： 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート

代表取締役： 田中 実

企業情報：<http://corporate.kakaku.com/>

事業内容： サイトの企画運営

当社運営サイト一覧：<http://corporate.kakaku.com/company/service.html>